鞍馬の牛若（松口月城）

恩讐　脉脉　心肝に　徹す

鞍馬山の　牛若丸

経文を　読まず　韜略を　読む

錬磨の　一剣　天に　倚って　寒し

解説　勇将義経が五条の大橋で武蔵坊弁慶を屈伏せしめたのも、また、後年、壇の浦で八艘飛びの離れ業を演じたのも、すべてこの鞍馬時代の修練の賜と言われている。

語釈　※恩讐＝恩と仇。なさけとうらみ。※脉々＝途絶えずに力強く続くさま。※心肝＝心。心の底。※韜略＝兵法。兵略。※錬磨＝鍛え磨きあげること。

通釈　心の底より恩讐は途絶えずに力強く続く、鞍馬山に棲む牛若丸。この牛若丸は与えられて経文より、この先の時代を見据えて、兵法を読破し、また剣法を磨き鍛えている。